

デュオスマイル Duo Smile

デュオドーパ®をお使いのみなさまへの情報誌

Vol.
3

〔総監修〕
独立行政法人 国立病院機構
仙台西多賀病院 院長
武田 篤先生



abbvie

「いつもの備え」は、「もしもの備え」

2019年も早や2ヵ月が経過しました。

今年5月には元号が変わりますが、歴史に残る新たな時代の幕開けを楽しみにされている方も多いことと思います。激動の昭和、進化の平成、新しい元号と3つの時代に亘る経験や知見は、かけがえのない財産です。

平成の時代にデュオドーパ®療法を開始されたことも、皆さんにとっては大きな節目だったのではないのでしょうか。

2018年の“今年の漢字”は『災』でしたが、振り返りますと日本は多くの自然災害に見舞われた年でした。

6月には大阪府北部地震が発生しました。

7月には西日本を中心に豪雨による甚大な被害を引き起こしました。

8月には「災害級」の猛暑となり、熱中症で救急搬送される方も各地で多くおられました。

9月には北海道胆振東部地域で震度7の地震が発生しました。北海道内の全域が停電し、物資の供給が滞るなど多くの方が不安な日々を過ごされました。

また、台風による暴風・高潮被害が相次ぎ、各地で局所的な大雨による被害をもたらしました。

各地で被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

旭川医療センターは北海道旭川市にあり、2017年8月には北海道から地域医療支援病院の指定を受けました。昨年の北海道胆振東部地震による停電の際には、自家発電を稼働して6時間ほどで復旧することができましたが、入院患者さんの安全確保や、緊急患者さんの受入を優先するために、通常診療に少なからず影響が出ました。しかしながら、多くの患者さんがこの緊急事態をご理解くださり、ご協力のもと大きな混乱もなく乗り切ることができました。

この時の北海道全域の大規模停電は、電力の需給バランスが崩れたことが原因で二次的な災害のように思われますが、停電は、地震・台風・豪雨や豪雪等の自然災害に加え、予期せぬ落雷や電気工事など様々な要因で局所的にも発生しうることで、復旧にかかる時間も様々です。

「もしものに備える」というと少し構えてしまいがちですが、「いつもの備え」をしっかりとおくことが、災害時はもちろん、外出先やご自宅でのいざという時の備えに通じるのではないかと思います。

「いつもの備え」が「もしもの備え」に。「いつもの備え」が「日々の安心」に…。

本誌では主にデュオドーパ®療法に関する「備え」をご紹介します。

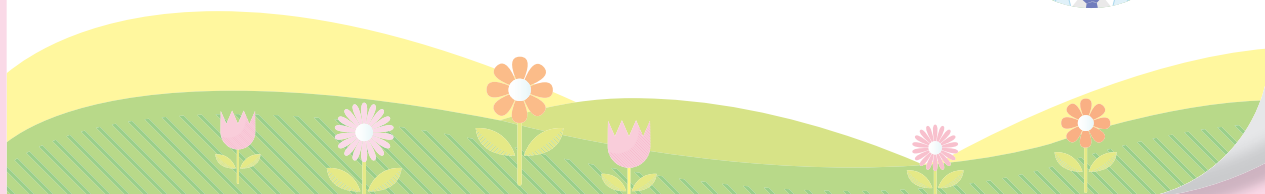
皆さんが笑顔で楽しく生活できるよう、今回のデュオスマイルをきっかけに、ご家族や治療をサポートしてくださる方々(医師や看護師、薬剤師、介護者の方々)と、「いつもの備え」について話をしてみたいはいかがでしょうか。

本誌が皆さんの治療の一助となれば幸いです。

独立行政法人 国立病院機構 旭川医療センター
脳神経内科 統括診療部長

(所属・役職は2019年3月現在)

木村 隆先生

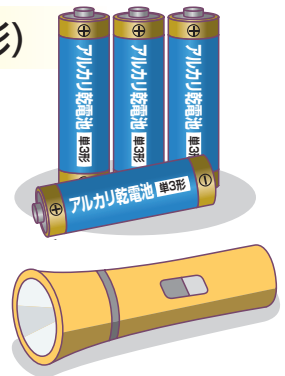


災害時には、ご自身の身を守ることが一番大切です。
日頃から医薬品、医療材料、水と食糧等を備蓄することをお勧めします。
避難場所や避難経路の確認、緊急時の連絡方法などは、
前もって決めておきましょう。

「いつもの備え」デュオドーパ® 編

▶ ポンプ用の電池を備蓄しましょう。(アルカリ乾電池 単3形)

- 外出先での電池交換に備え、常に新しい予備の電池を携帯しましょう。
- 自宅には、1ヵ月程度の電池を備蓄しましょう。
(災害時には物資が不足する場合があります。電池は1ヵ月分あると安心です。使用済み電池が混在しないように在庫管理にも注意しましょう)
- 停電時や夜間のポンプ操作に備え、懐中電灯を用意しておきましょう。



▶ 保冷剤や保冷バッグを常に準備しておきましょう。

- 保冷剤は常に冷凍し、保冷バッグをすぐに使える状態にしておきましょう。
(旅行時などは、宿泊場所での冷蔵庫の有無や使用について、出発前に確認しておくで安心です)
- 停電時、冷蔵庫の開け閉めは極力避け庫内の冷気を保ちましょう。
- 停電時の薬剤の保管や使用について、お薬を受け取る先の薬剤師さんと話をしておきましょう。



デュオドーパ® は箱に入れたまま(遮光して)、2℃~8℃で保管してください。
2℃~8℃から長時間外れて保管してしまった場合は、その薬剤は投与しないでください。

▶ 医師と救済薬について事前に話をしておきましょう。

- ポンプの故障等で一時的にデュオドーパ® 治療ができない場合に備え、緊急時の経口レボドパ製剤の準備について前もって主治医に相談しておきましょう。
- 万一、災害などでデュオドーパ® の治療継続が困難となった場合には、一時的に経口レボドパ製剤を服用することがあります。主治医の指示に従ってください。

- 患者手帳は常に携帯しましょう。
(コールセンターの電話番号を常に携帯してください)
- お薬は余裕をもって受け取りに行きましょう。
- 旅行先や災害時も胃ろうのケアは毎日行います。
フラッシング用のシリンジとアダプタも忘れずに。
- 断水時に備え、フラッシング用の水(ミネラルウォーターのペットボトル等)も準備しておきましょう。



「いつもの備え」チェックリスト デュオドーパ® 編

- アルカリ乾電池(単3)
- フラッシング用のシリンジ、アダプタ
- 保冷剤、保冷バッグ
- フラッシング用の水
- 懐中電灯
- お薬は余裕をもって受け取りに行きましょう
- 緊急時の経口レボドパ製剤
- …など
- デュオドーパ® 患者手帳



春が待ち遠しい今日この頃、
外出や旅行の計画を立てておられる方も
いらっしゃると思います。

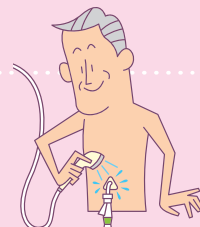
♪ 宿泊を伴う旅行は、事前に主治医に相談し余裕をもって計画を立てましょう。

- 旅行には必要な薬液入りカセットを箱に入れたまま持参し、移動中はクーラーボックス等で適切な温度(2℃~8℃)で保冷し、目的地に着いたら直ちに冷蔵庫に入れてください。
- 予備の乾電池や、フラッシング用のシリンジ、アダプタも忘れずに持参してください。



♪ デュオドーパ® 治療では、温泉への入浴も可能です。

- ご自宅と同じようにポンプを外してから入浴してください。
- 温泉から上がった後、真水(水道水のお湯/シャワーなど)でコネクタやチューブを洗い流し、タオルで乾かしてください。



「いつもの備え」は「もしもの備え」。
外出やご旅行を楽しんでくださいね♪

デュオドーパ® による治療を受けられる
患者さんのための問い合わせ窓口

デュオドーパ® コールセンター

フリーダイヤル

0120-063-789

受付時間：24時間365日〈通話料無料〉

わからないことがあれば
いつでもお電話ください。
お待ちしております。

患者さんや
介護者の方々からの
お電話をお受けして
います。

